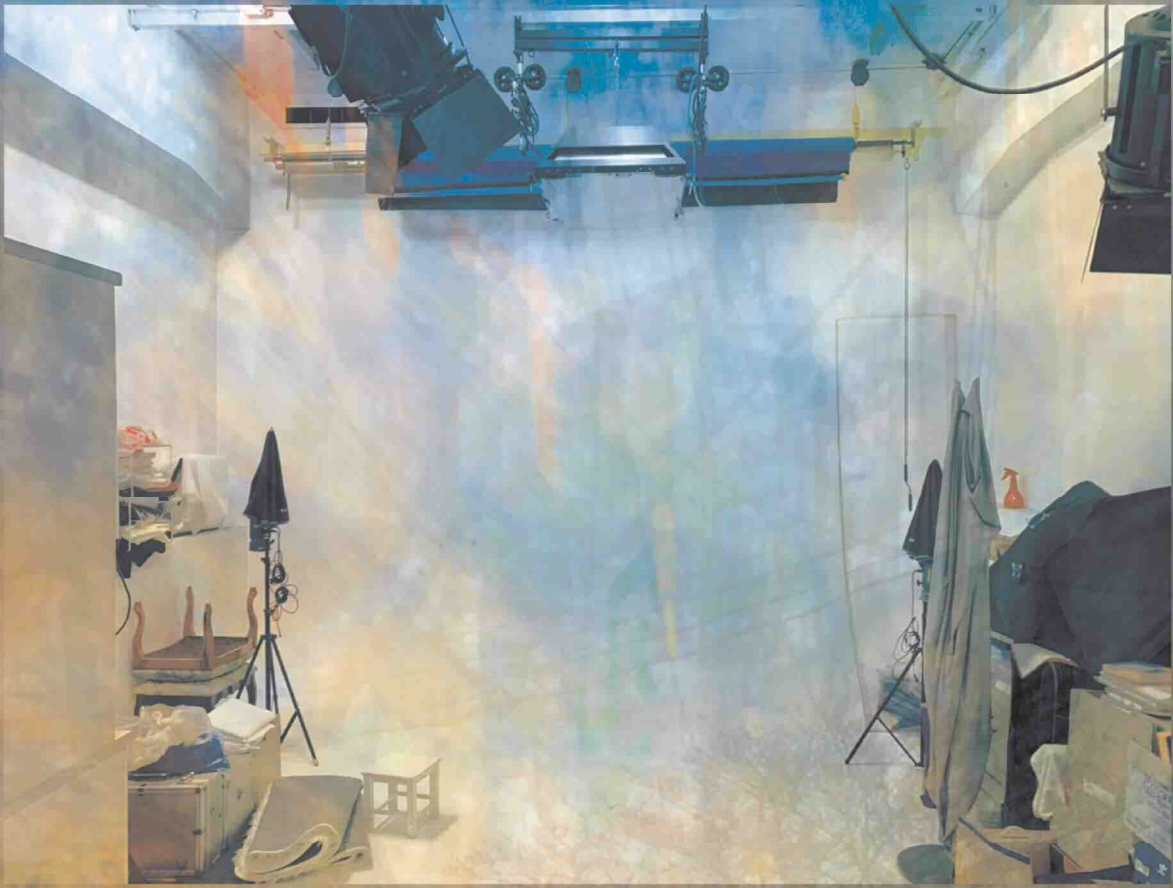


ART



Sightama  
さいたま  
国際芸術祭  
2020



# 父が見ていた未来のまなざし

— 浦和に寄り添う写真と絵画展 —

2020年 10月17日 ~ 11月15日 土日のみ開場

10月17、18、24、25、31日

11月1、7、8、14、15日

● 会場：STUDIO・45

(埼玉県さいたま市浦和区高砂4-3-1)

● 企画：小泉文

● 参加作家：横越文彦 (写真家)

● 開場時間：13時～19時 入場無料

小久江 峻 (藝術家、画家)

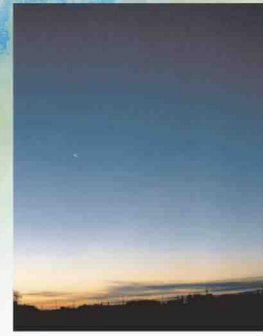


写真 / 横越文彦

中山道の道なり。未来へ向かう人々が腰を下ろし、立ち止まる町、浦和。そんな町の人々を写し、人生の旅路の節目と共に向き合ってきた文さんのお父様のスタジオは、残された写真とともに、5年以上時間が止まっていた。

昨年、お父様の背中を追いかけるようにアートを学んでいた文さんと、私はアートと通じて出会った。このスタジオについての話を聞いたのはそれからすぐのことだった。

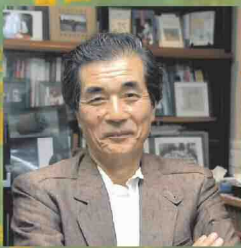
文さんはこのスタジオの時を動かそうとしていた。しかし、どうすればいいのかわからないという。私がスタジオに招かれると、突き当たりには数々のまなざしを受けてきたであろう白い壁や背景用のスクリーンが当時の息遣いを染み込ませたままそこに在るのだった。私はそのまなざしをもっと知りたい、文さんに伝えたいと思った。

二人で当時の写真を漁っていると二本の桜の木を映した写真を見つけた。お父様が最後に見つめていたのはこの二本の桜の木だった。桜の場所は娘の文さんも知らないという。

「この桜の木を実際にみる事ができたなら、何か父のことがわかるかも知れない。」

当時の写真を片手に、桜のありかを探すべく、我々は中山道を車で走らせ浦和の町へとくりだしたのだった。過去と今、そして未来へのまなざしが重なりあうために。

(ステートメント / 小久江峻)



横越 文彦 | Fumihiko Yokogoshi

富山県高岡市出身。  
1961年 大映株式会社入社  
1968年 文学座入所  
1972年 株式会社 STUDIO・45 設立

富山から上京し大映株式会社へ入社し、映像を学ぶ。その後、恩師の勧めで俳優になるため文学座へ入所するか、再び映像を撮る側に興味を持ち退所し、1972年株式会社 STUDIO・45 設立。写真家として活動を続けた。約40年に渡り浦和の町で多くの人の人生を見守る。



小泉 文 | Aya Koizumi

2020年 東京藝術大学 Diversity on the Arts Project 修了

横越家の3人兄弟の長女として生まれる。ARTに関心をもち、美術館で企画展等のファシリテータを務める。医療現場にもアートを取り入れた活動をしたいと、県立小児医療センターでのボランティア活動の傍ら東京藝術大学では福祉とアートを学ぶ。

本企画を通じて、藝術、福祉、医療分野の垣根を越え、生きる力の追求を目指す団体「Colere Ars」の立ち上げのきっかけをつくった。

地域と人とを結ぶ ARTPROJECT、サーキュレーションさいたまでも活動中。



小久江 峻 | Shun Koehama

1993年 千葉県生まれ  
2013年 東京藝術大学 美術学部絵画学科油画専攻 卒業  
2020年 東京藝術大学 Diversity on the Arts Project 修了

芸術家、画家、紙巻油彩現代紙芝居「また来たうらめしや」代表、「Colere Ars」代表。  
絵師、ワークショップ、雑芝居、音楽など幅広く活動。藝術、福祉、医療分野の垣根を越え、人間の生に対して幅広く活動を行う。  
絵画では線を手として用い油彩画を制作。綿から生まれる筆触を通して執拗に色を重ねることによって図像が飽和し、生の感触を空気に漂わせることを試みる。



# 父が見ていた未来のまなざし

— 浦和に寄り添う写真と絵画展 —

2020年 10月17日 ~ 11月15日 土日のみ開場

[10月17日 18日 24日 25日 31日 11月1日 7日 8日 14日 15日]

開場時間：13時～19時 入場無料

STUDIO・45

埼玉県さいたま市浦和区高砂4-3-1

お問い合わせ：studio45.urawa@gmail.com

JR 浦和駅より徒歩10分 埼京線浦和駅より徒歩15分  
うらわ美術館より徒歩7分  
埼玉県立近代美術館より徒歩10分  
車で来場の際は近隣の駐車場をご利用ください。